

1. 評価結果概要表

作成日 H19年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4270800271		
法人名	医療法人社団 壮志会		
事業所名	グループホーム らくらく		
所在地	〒859-4752 長崎県松浦市御厨町里免397 (電話) 0956-75-0123		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】(H19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人 非常勤 0人 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建て	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,100 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		790 円

(4) 利用者の概要(4月1日)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 壮志会 押淵病院 高島歯科
---------	----------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年の設立当初から介護理念を「ゆったり、楽しく、自由にありのままに」を掲げている。設立当初から働いている職員が多く、利用者は安心して生活できる家族的雰囲気にも包まれている。又、当事業所は医療法人の系列に組み込まれており、病状悪化などに即対応できる事が家族の安心に繋がっている。ベランダを作り野菜や花、ベンチを置いて利用者は穏やかな生活を送られており、今後は、地域に密着したホーム作りの展開を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は、契約書・重要事項説明書に入居者の権利・義務に関する事項の不備を指摘されている。現在も見直しの検討中と言うことで、今後は充実した内容に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全体で取り組んでいる。自己評価を意識しながら職員間の意思疎通を計っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の立ち上げに向かって前向きに取り組んでいるが、まだ出来上がっていない。しかし、地域との触れ合いは積極的に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	最低月1回、利用者の状態や体調の変化など報告し、金銭管理簿には目を通してもらう。苦情を直接言う家族はいないが、「家族の気付き」を把握する努力がされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	国道沿いで車の交通量が多く、近所を散歩する取り組みは利用者が限定されている。地区の行事参加などされているが、地域に貢献するところまで至っていない。学校も近くにあり、登下校時の声かけなどから取り組まれる意向はある。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設者の理念である「ゆったり、楽しく、自由にありのままに」を介護理念に掲げて、地域に溶け込んでいくことを目指されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体で理念を共有し、家族的な雰囲気職員と利用者が共同生活されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回の改善項目については、小中学校の介護体験学習の受け入れ態勢を整えて受け入れ、地域の行事参加をされている。更に地域への貢献を目指されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価の意義を共有しており、外部評価の意義も理解しておられる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の立ち上げがまだできていない。		家族会はないが、地区の行事の参加時に家族同士の触れ合う機会を生かした取り組みから始める事や、市との連携を密にすることで運営推進会議への取り組みに生かしていく事を表明されているので、期待したい。

グループホーム らくらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援専門協議会に参加して、他の事業所の取り組みを知ることでサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族も含め年4回、個人の暮らしぶりなど記入して送付している。金銭管理は家族が月1回利用料金の支払いを兼ねての訪問時に出納簿の確認と署名をしてもらう。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をし、面会の帰り際に声を掛けるなど、家族の気付きや要望、不満や苦情など伝えてもらえるよう配慮されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、異動は運営方針で年1回職員一人を限度にされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の改善項目にもあったが、法人内での医療系職員も含め研修会が不定期に行われており、参加している。外部への研修は地域性から参加できないことが多い。		段階に応じた研修受講や働きながらのトレーニングなど、職員育成に繋がる取り組みを工夫されることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門協議会に参加して、他の事業所の取り組みを知ることでサービス向上に努めているが、地域のグループホーム協議会などの組織活動がないので同業者とのネットワーク作りや交流の機会に恵まれない。		お互いの事業所訪問の機会を作られることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人内の病院から、突然入所が決まる事があり、馴染みながらの利用がなかなかしにくいですが、突然の入所でも他の利用者への影響は少ない。</p>		<p>関連施設からの入居などは、できれば早めの情報提供と面接や体験などを通して、職員と顔見知りの関係構築に努められることが望まれる。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人のペースに合わせた「ゆったり、やさしく ありのままに」を実践されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活を通じた視線で、さりげなく見守り、観察などで入居者の思いや意向を把握した介護をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングし、ケア会議には家族も出席されており、本人や家族の思いを反映した介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月に1度の見直しであるが、変化時や介護計画見直し以前に変更がある場合は、家族との連携を持ちながら現状に応じた見直しをしている。</p>		

グループホーム らくらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が関連病院や市外の病院入院をされても、家族や本人の希望があれば、退所扱いせずに家族との連絡や、様子を見に行くなど柔軟な対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連病院に健康に問題がなくても、3ヶ月に1回は定期受診をしている。週1回の訪問看護も実施されており、健康状態の変化にいち早く対応できる体制がある。また、市外の病院受診は家族が対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合などは母体病院で対応されており、今まで終末期を施設内で看取ることはなかった。家族の希望も病院対応を望まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや記録などの個人情報の扱いは慎重にしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム生活の流れの中に、できるだけ本人の希望を取り入れた支援を心がけられている。		

グループホーム らくらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士の指導が活かされており、栄養バランスは取れている。個人のレベルに合わせた作業の場面作りで、下ごしらえやお絞り配布、配膳手伝いなど支援されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男女分けて本人の希望に合わせた入浴介助をしている。失禁や汗が多い方などは柔軟にシャワーなど利用して対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や入居者同士の会話などから、職員が知らなかった一面を、気晴らしや楽しみごとに繋げる支援をしていく姿勢が見受けられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの理美容室や、商店への買い物などできる限り外出の支援をされているが「十分ではない」と職員は意識している。家族の面会時に外出、外泊などへ繋がる家族への協力要請が積極的に行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが国道に面しており、線路も近いので安全の確保から、玄関の日中の施錠も余儀なくされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災訓練を実施されている。		

グループホーム らくらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の減少、夏時期の水分量の把握をされている。個人に応じた食事のやわらかさなど一人ひとりの状態に合わせた支援をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回まではなかったベランダやベンチを置き、庭に花や野菜の栽培など生活感や季節感を採り入れてある。入居者は庭先を眺めたり、直接触れるなど居心地良い暮らしの支援をされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2階にあり、就寝時の利用が多い。見せていただいた居室はスペースが広く、必要以外の持ち込みは少ないが、本人の生活暦が垣間見られ居心地良く過ごされている。		